

稚内空港の
30年後の将来イメージ

地域観光資源へのアクセスを担い 地域の経済・生活を支えるゲートウェイ



旅客ビル施設建替
ショーケース・道の駅機能新設

空港の賑わいを
生み出す空港広場

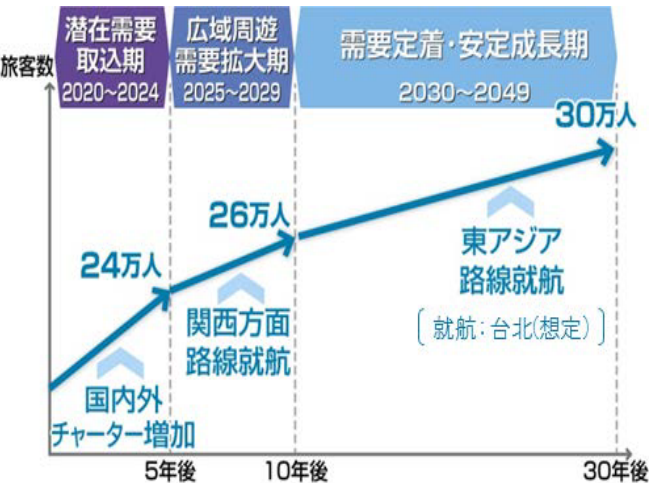


24時間利用可能
駐車場・トイレ

■ 稚内空港の目標値

	2017年度	2024年度 (5年後)	2049年度 (30年後)
旅客数	20万人	24万人	30万人
国内線	20万人	22万人	27万人
国際線	0万人	2万人	3万人
貨物量	2百トン	2百トン	3百トン

■ 稚内空港の成長ステップ



■ 稚内空港の航空ネットワーク(30年後の想定)



(※四捨五入により合計が合わない場合がある)

航空ネットワークの充実

■ 新たな観光需要や広域の観光流動による路線誘致

- 来道外国人の取込による新千歳線の利用率向上
- チャーター利用実績の伸びが高い関西方面の新規就航
- 旅客ビル施設の建替・容量拡大による、夏季の旺盛な国内外チャーター就航需要の取込み
- 季節繁閑差等のエアライン負担を低減する料金体系導入

■ 広域的な観光流動の創出

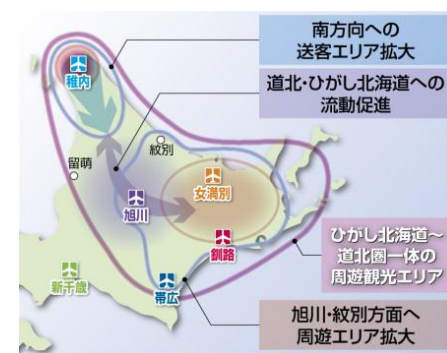
- 自治体や新DMOと一体となった地域の魅力向上・発信
- 新千歳空港・旭川空港での宗谷圏PRIによる観光流動の促進
- 稚内～旭川・女満別間の二次アクセス拡充・観光商品の企画・PRIによる双方向流動の実現

地域との連携・地域共生

■ 地域と一体となった通年来訪需要の底上げ・地域活性化

- 地域で設立されることが予定されている新DMO等、地域と一体となった路線誘致・需要創出体制の構築
- 宿泊施設が集積する稚内市街を拠点とした周遊観光の推進
- 豊富温泉等新たな観光資源の強化
- 周辺地域との交流機会創出と地域人材の育成

＜空港間連携による周遊エリアの拡大＞

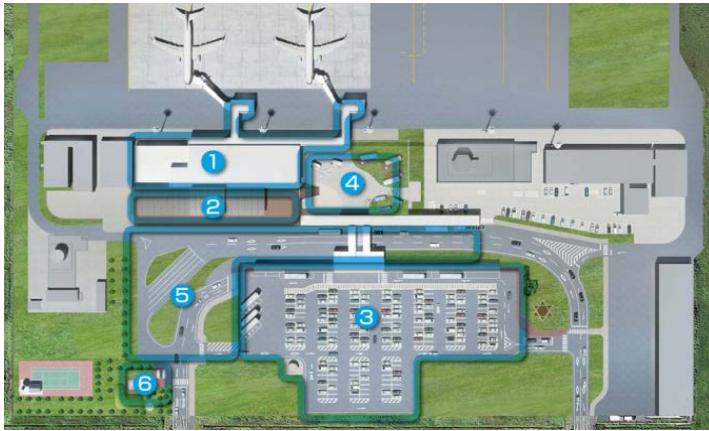


空港施設運用

■ エアライン受入環境の整備・受入容量の拡大

- 旅客ビル施設の建替により、内際同時2便受入を実現し、夏季の旺盛な来訪需要に対応(①)
- 除雪効率の高い大型車両の導入、譲り受ける気象レーダー(⑥)の活用など就航率向上への取組を継続的に実施
- 24時間利用可能な駐車場・トイレを整備し、駐車台数を拡大(③)
- 安全性確保とわかりやすさの向上のためカーブサイドを改良(⑤)

＜30年後の施設等配置図(案)＞



■ 多様な利用者が集う観光・地域拠点

- 建替に合わせ、空港全体を宗谷エリアの魅力を感じられるショーケースに改修し、地域の魅力を発信
- 観光客の立寄りや周辺住民にも利用される道の駅機能(②)
- 航空機が間近に見える空港広場を設け、イベントにも活用し賑わいを創出(④)
- 幅広い旅客ニーズに応える観光コンシェルジュを設置

＜観光コンシェルジュ＞



■ 設備投資戦略(30年間の投資総額(想定) 約137億円)

- 運営開始当初5年程度で30年間の成長基盤を概成

